

新潟県公立入試 類似)

- (2017年 鳥取県公立入試 類似)

- (2016年 神奈川県公立入試 類似)

- (2021年 和歌山県公立入試 類似)

- (2019年 長野県公立入試 類似)

- (2026年 沖縄県公立入試 類似)

- (2024年 宮城県公立入試 類似)

- (2019年 長野県公立入試 類似)

- (2016年 秋田県公立入試 類似)

- とが挙げられます。この現象を何と呼びますか。 (2014年 愛媛県公立入試 類似)

- (2017年 千葉県公立入試 類似)

- (2021年 静岡県公立入試 類似)

- (2019年 広島県公立入試 類似)

- (2024年 新潟県公立入試 類似)

- いちごドリルプリント

答え合わせ・解説

問1	答え 3 山形県	東北地方の日本海側に位置する山形県は、最上川流域の盆地を中心に果樹栽培が非常に盛んです。統計上、米の産出額が県内農業の大きな割合を占めつつも、果実の産出額が約六百九十億円と他の近隣県に比べて際立って高いのが特徴です。サクランボ（おうとう）や西洋ナシなどの生産量は全国トップクラスであり、「果物王国」とも呼ばれます。
問2	答え 1 香川県 — 高松市	宮城県は県庁所在地が仙台市であるように、香川県の県庁所在地は高松市であり、県名と都市名が異なります。一方、新潟県、佐賀県、青森県は、いずれも県名と県庁所在地名が同一の名称となっています。中学地理では、このように名称が異なる県庁所在地を正確に把握しておくことが重要です。
問3	答え 3 やませ	オホーツク海高気圧から発生する冷涼な空気が、寒流である親潮（千島海流）の上を通ることで、冷たく湿った性質を持って東北地方の太平洋側に流れ込みます。この風は夏の気温上昇を妨げるため、農業に大きな影響を与えます。
問4	答え 4 日照不足と低温によって稲の生育が著しく妨げられ、記録的な米の不作（冷害）となった。	1993年は「平成の米騒動」と呼ばれるほど深刻な冷害が発生した年です。統計資料によると、東北地方の太平洋側を中心に、夏場の日照時間が平年の半分程度まで落ち込み、気温も平年より2〜3度低い状態が続きました。これにより、主食である稲の開花や実りに必要な熱量・光が不足し、収穫量が激減しました。この不足分を補うために、タイなどから緊急で米を輸入する事態となりました。
問5	答え 4 オホーツク海高気圧から吹き込む冷たく湿った北東風「やませ」により、夏の気温が上がらず冷害が発生する	東北地方の太平洋側では、夏にオホーツク海高気圧から「やませ」と呼ばれる冷涼な北東風が吹き込むことがあります。この風が長期間吹き続けると、夏でも気温が上がらず、日照時間も不足します。その結果、稲の生育が妨げられる「冷害」が発生し、過去には米の収穫量が平年の半分以下になるような深刻な凶作を招きました。
問6	答え 1 やませ — 低温でも育ちやすい稲の品種改良	東北地方の太平洋側に初夏から夏にかけて吹く冷涼な北東風は「やませ」と呼ばれます。この風が長期間吹くと日照不足や低温を招き、農作物が育たなくなる「冷害」を引き起こします。これに対し、農業試験場などでは複数の品種を試験栽培し、寒さに強い品種を開発・普及させる「品種改良」を行うことで、安定した収穫量を確保する対策を講じてきました。
問7	答え 1 盆地	内陸部において周囲を山に囲まれた低地を「盆地」と言います。東北地方では山形盆地や福島盆地が代表的です。これらの地域は、山から流れる河川によって運ばれた土砂が堆積してできた扇状地などが発達しており、水はけが非常に良いため、米作りよりも果樹栽培に適しています。
問8	答え 1 風の名称：やませ ／ 影響：夏の低温による冷害	夏にオホーツク海付近（北東方向）から東北地方へ向かって吹く冷たい風を「やませ」と呼びます。この風は太平洋側に低温と湿気をもたらし、農作物の生育を阻害する「冷害」の主な原因となります。特に冷害に弱い米作りにおいては、この現象への対策として冷害に強い品種（耐冷性品種）の開発などが進められてきました。
問9	答え 3 最上川や北上川などの流域に広がる平野部において、大規模な土地改良や機械化による効率的な稲作が発展したため。	東北地方は、庄内平野や北上盆地などの豊かな水資源と広大な平坦地に恵まれています。かつては冷害などの自然災害に悩まされてきましたが、品種改良や水利施設の整備、農地の集約化といった生産基盤の強化を進めたことで、日本を代表する米の供給地となりました。やませはむしろ冷害の原因となるため米作には不利に働きますが、それを克服するための技術革新が「米どころ」としての地位を支えています。
問10	答え 2 フェーン現象	東北地方の夏は、オホーツク海高気圧から冷涼な「やませ」が太平洋側に吹き込みますが、この風が奥羽山脈を越える際にフェーン現象が発生し、日本海側の気温を上昇させます。その結果、山脈を隔てた日本海側と太平洋側では、同じ東北地方であっても夏期の気温分布に明確な差が生じます。
問11	答え 2 福島県	福島県は東北地方の南の玄関口に位置しており、新幹線や高速道路によって関東地方と強く結びついている。地理的に東京などの大都市圏に近いことから、東北地方の中でもいち早く工業化が進んだ。宮城県は福島県の北に位置し、山形県は奥羽山脈を挟んで西側に位置している。
問12	答え 3 冬の寒さが厳しく、内陸部や太平洋側で見られる気候	東北地方の内陸部や太平洋側の地域では、冬に奥羽山脈などの山々が日本海側からの湿った季節風を遮るため、日本海側に比べて降雪量は少なくなりますが、放射冷却の影響などで気温が氷点下まで下がる厳しい寒さとなります。一方で、夏から秋にかけては太平洋からの湿った風や台風の影響を受けるため、降水量がこの時期にピークを迎えるという特徴があります。
問13	答え 3 岩手県	東北地方の東側に位置するこの県は、北を青森県、南を宮城県に挟まれており、広大な県土を有しています。沿岸部の南部には複雑な海岸線が見られ、地理的な特徴を活かした産業が発達しています。
問14	答え 3 日照時間が不足し、冷涼な気候によって稲の生長が妨げられる冷害が発生する。	北東から吹き込む「やませ」は冷たく湿った性質を持っているため、この風が長期間吹き続けると太平洋側を中心に気温が上がらず、霧が発生して日照時間が減少します。特に稲の開花や結実の時期に重なると、収穫量が激減する「冷害」の原因となります。このため、東北地方では冷害に強い品種（ササニシキからひとめぼれ等への転換など）の改良が盛んに行われてきました。